



## 【造船技術研究プログラムⅡ】



### 《目的・ねらい》

[目的] 船舶の研究を行う施設の見学や体験を通して、船舶に関する技術の研究・開発への興味・関心を高めるとともに、基本的な内容を理解する。

[ねらい] 船型の研究・開発分野への興味・関心を持つ。

### 《実施内容》

◆広島大学の船舶研究施設の見学・体験、研究内容の解説

○期日 平成30年 7月23日(月)

○場所 国立大学法人 広島大学

○指導 工学研究科 田中 進 准教授  
佐野 将昭 助教

○対象 機械造船科(造船コース)2年生 18名

### 《大学での学習内容》



- ・曳航水槽における抵抗試験、風洞装置を用いた風洞実験による研究の内容についての解説、各施設の見学・体験
- ・多胴船、電気推進船等、様々な船舶の種類や構造の説明
- ・原油タンカーの方位保持・タンク加熱等の研究内容の解説
- ・模型実験やシミュレーションによる海底ケーブルの敷設、アンカーの引上げ速度等に関する研究内容の解説

### 《生徒の感想・学んだこと》

- ・曳航水槽は、とても精密な設備で、長さが100mもあり、大学所有の水槽の中でも最大級であることに驚きました。
- ・風洞実験の風を体験できたことが印象に残っています。
- ・様々な工夫や計算がなされ、研究を積み重ねた上で船舶が建造されていることが分かりました。また、船舶の事故を無くすために日々研究されていることに感心しました。
- ・知らないことが沢山あるので、もっと勉強していきたいです。

### 《SPH推進アドバイザー岡田さんの助言》

通常の高校の授業では叶うことのない特別な課外授業が行われ、生徒にとって夢のある授業となった。全面的に協力していただいた大学には大変感謝しています。

### 《成果・今後の課題》

実施後の生徒からは、新たな知識・技術を習得することができ、学ぶ意欲が高まった様子をお聞きすることができました。今回学んだことを今後の学習に生かし、船舶について、より深く学ぶことができるよう努めていきたいと思っております。

